



次世代を見据えた 取り組み

目標

次代を担う子どもたちの育成
ダイバーシティ、ワーク・ライフ・バランスの推進

課題

企業に対する教育支援への期待
新たなイノベーションの創出を目指す職場づくり



世界中の子どもたちに化学のおもしろさを ~教育支援~

住友化学グループでは、次代を担う子どもたちに化学に対する興味を持ってもらうため、化学の楽しさを伝えることは重要な役割であると考え、「理科教室」の取り組みを国内外の各拠点・グループ会社において継続的に展開しています。

海外グループ会社に広がる「理科教室」

これまで国内事業所で行ってきた「理科教室」を海外グループ会社でも積極的に展開しています。中国では、2012年から住友化学投資(中国)有限公司が住友化学グループ会社と協力し、小学生を対象に「理科教室」を継続して開催しています。また、シンガポールでは、2015年9月

Sumitomo Chemical (Asia Pacific) Pte.Ltd.が同地区のグループ会社と協力し、近隣の「学童保育所」へ出向き、「出前理科教室」を開催しました。また、ベルギーでも2015年11月にSumitomo Chemical Europe S.A./N.V.が科学の日にちなんだ子ども向けの科学イベントに初めて参加するなど、海外グループ会社における「理科教室」が着実に広がっています。

VOICE ● 化学の不思議を知った「理科教室」

Whispering Hearts Student Care Centre (在 シンガポール)

Mr.Yeo Yew Huat (奥) Ms.Nur Hassinahbanu Bte Md Salim (手前)

初めての「理科教室」を住友化学グループ会社のシンガポール地区の皆さまによるご厚意で、開催することができました。小学生の子どもたちは、偏光フィルムや吸水性ポリマーのユニークな実験を体験し、「キラキラ万華鏡」の色の鮮やかさや、「不思議な筒」のトリック、そして「不思議な粉」の形状の変化に驚きの声を上げていました。子どもたちからは、「理科が好きになった」、「化学への興味が増した」などの感想も多く寄せられました。住友化学グループの製品を使った実験内容や子どもたちへの安全に配慮した手順の説明および実験器具の準備などにも感心しました。今後も住友化学グループの皆さまとともに「理科教室」を継続していきたいと思ひます。



多様性こそ未来への原動力

組織の多様性を高め、従業員一人ひとりの力を最大限発揮させることで、新たなイノベーションの創出を目指します。

ダイバーシティ推進の取り組み

住友化学では、「ダイバーシティの推進」を重要な経営テーマの1つと位置づけ、性別や国籍、年齢にかかわらず、多様な人材が個々の能力を最大限に発揮し、やりがいと働きがいを持って生き生きと働くことのできる職場づくりに力を注いでいます。これは当社がグローバルにビジネスを展開する中で、こうした取り組みが職場に活力をもたらし、ひいては当社の競争力を強化し、新たなイノベーションを生み出すと考えるからです。



女性リーダー創生塾の受講の様子

女性活躍推進に向けて

当社は「ダイバーシティの推進」の取り組みの一環として、「女性の活躍推進」に関するさまざまな施策を進めています。その取り組みの1つに「女性リーダー創生塾」があります。本研修は、当社女性社員が社内外の女性役員や講師との意見交換を通じ、管理社員としての心構えや仕事への取り組み姿勢、キャリアに関する考え方を学ぶほか、仕事の進め方や部下との適切なコミュニケーションの方法などリーダーに必要なスキルの習得を目的としています。2015年度は23名の女性社員が本研修(計4回)を受講しま



参加者は熱心な表情で講演を聴き、グループ討議に参加していました

した。最終回では、上司の参加の下、キャリアビジョンを作成・共有することで、キャリアに関する上司と部下との相互理解を深める機会としています。

参加者の声

- 外部講師の講演はご自身の体験に基づく話で説得力がありました。
- 業務上接点のない多岐にわたる部署の女性社員が参加しており、ネットワークを広げることができました。
- 「上司からの手紙」には、自分が部署から何を期待されているかが書かれており、今後の仕事に対するモチベーションが高まりました。

ワーク・ライフ・バランス推進の取り組み

当社は、従業員が仕事と生活を両立し、より健康で豊かな生活を送ることができるよう、ワーク・ライフ・バランス推進に積極的に取り組んでいます。育児・介護などの大きなライフイベントを迎えた従業員がキャリアを継続できるよう諸制度の充実を図っています。毎日の仕事と生活の調和を図るべく、有給休暇の計画的取得やワーク・ライフ・バランスデー(週1回以上定時で退社する日)の取得も励行しています。

VOICE 男性育児休業取得について

法務部 大石 貴生

娘の出生後、出産サポート休暇および育児休業を合わせて1か月弱取得しました。体力の回復を図る妻を、掃除、洗濯、買い物などの家事を分担することで出来るだけサポートし、生まれたばかりの娘の世話を行いました。育児休業の機会に、夫婦で娘の一举手一投足に戸惑いながら24時間じっくり向き合えたことは、大きな喜びでした。また、少しの間仕事から離れることで、家族との関係や仕事との向き合い方を深く考える大変良い機会になりました。このような機会を持つことができたのは、快く育児休業に送り出してくれた職場の上司、同僚、後輩の皆さんと、一部を有給扱いとするなどの充実した当社の育児休業制度のおかげです。皆さんのサポートに深く感謝しています。

